

円頓寺・四間道界隈のまちづくり

最近、新聞や雑誌、テレビなどで「円頓寺商店街」、「四間道」という言葉をよく目にするようになった。超高層ビルの立ち並ぶ名駅地区のすぐ北東、下町情緒を残す「円頓寺商店街」と土蔵・町家が残る「四間道」では、小規模ではあるものの様々な祭りやイベントが行われ、かつての空き店舗や空き家が新しい店舗としてオープンし、まちを訪れる人が増えるといった小さな変化が起き始めている。

山崎 崇

注目高まる円頓寺・四間道界隈

活気ある商店街への再生、町家が並ぶ景観の保存活用などゴールはまだ先であるが、界隈に残る下町情緒や歴史を感じさせる景観などの魅力とともに、まちづくりに一生懸命取り組む人々が新聞等で紹介されることも多くなっている。

例えば、西区役所まちづくり推進室は十年以上前から『ものづくり文化の道』推進協議会」の事務局として、広域エリアでの地域資源の掘り起こしや情報発信などの住民活動の支援をしている。念願の史跡表札を設置した「那古野一丁目まちづくり研究会」や、年に二回のマップ付き無料情報誌「ポウ」を発行する「緑側妄想会議編集室」などの地元住民の活動も五年以上継続している。また、三年前には界限を盛り上げるために商店主に建築家や学識者、コンサルタントなどが



名古屋下町散歩日和でのまち歩きツアー

加わり、「那古野下町衆（なごやしたまちしゅう。以下、那古衆）」が立ち上げられた。この他にも様々な人々による地道なまちづくり活動の積み重ねによって、注目が高まっている。

円頓寺・四間道界隈でのイベント開催

界隈では大小様々なイベントが開催されている。昨年五十五回目を迎えた円頓寺七夕まつりを始めとする商店街中心のイベント以外にも、那古衆が新たに始めたものもある。例えば、「名古屋下町散歩日和」は、過去三年間で計四回実施しているイベントである。歴史的な町並みや下町レトロを普段以上に楽しむことができるように、着物の着付け教室やお茶会、路上ライブなどで来訪者をもてなしている。そのもてなしの一つである着物来店者への特典サービスは、「円頓寺・四間道界限着物日和」として毎月（第一土日）のイベントとして継続している。

円頓寺・四間道界隈での空き店舗対策

注目が高まるにつれ、出店を考える人も多く現れてきている。空き店舗を減らすことは那古衆設立目的の一つでもあり、

その一部が「ナゴノダナバンク」として出店希望者と家主をつなぐ試みがなされている。家主の情報や意向をいかに把握するのか、両者の間に入り、どこまで関与すべきかなど課題はあるものの、試行錯誤しながら昨年は三店舗がオープンするに至った。なお、その一つの店舗では高齢の家主が住み続けられるように、一階の一部分のみを賃借している。自分の孫が開店したかのように生き活きと近所の人にPRする家主の姿や、地域に早く溶け込むことができている出店者の様子を見ると、家主と出店者の新たな関係性が構築されており、引き続き橋渡し役を担っていくべきである。

今後のまちづくり

イベント開催に限らず、地元のみだけでは限界があり、外部と協力・連携しながらまちづくりを進めることがいかに重要であるかを改めて感じる。空き店舗対策に関しては出店希望者と家主をつなぐだけではなく、今後地域が求める機能の導入を図る必要も出てくるであろう。また、築年数の古い建物もあり、個々の建物における改装や改築、建替えに限らず、協調・共同建替えなど近所の人と協力して建物やまちの改善を図ることもこれから必要になるであろう。



飲食店やギャラリーとして新たにオープン

土蔵と町家が並ぶ川伊藤家

田中 清之

城下町時代の面影を残す伊藤家住宅

名古屋指定の四間道町並み保存地区のほぼ中央に位置し、歴史文化的価値の高い伊藤家住宅を紹介する。伊藤家の先祖は、慶長十九年（一六一四）に大船町に移住した清須越前守で、茶屋町の伊藤家（後の松坂屋）と区別して、「川伊藤」と呼ばれ、江戸時代には尾張藩の御用商人を務めた。伊藤家住宅は、大船町筋西側に、南から南座敷、本家、新座敷からなる主屋と、中庭をはさんで蔵、新土蔵、西蔵、細工蔵とがある。また、大船町筋東の堀川に面した側には、表倉が残っている。大船町通りの両側が敷地であり、東は蔵を通して堀川に面し、西は四間道に接し、堀川の水運を利用して家業を営んだ堀川筋商家の典型例とされる姿を残しているため、住宅は愛知県指定文化財に指定されている。



歴史的まちなみ景観としての伊藤家住宅
大船町筋から眺めると、平入り切妻屋根で、二階の階高が低い厨子（つし）二階建てである。屋根は粘土製瓦、外壁は、一階の腰下部は下見板張、腰上部は黒漆喰壁で、二階は柱と桁を外に見せる真壁造で、両端は黒漆喰壁である。一階開口部は、千本格子付きガラス障子、二階開口部は、ガラス障子付き格子窓で仕上げられている。



大船町筋のまちなみ（伊藤家住宅）

個人所有の住宅であるため建物内部は非公開だが、「くどくど」や吹き抜けのある土間など昔の生活や文化を感じることができ、中庭を挟んで四棟の土蔵があるが、そのうちの西倉、新土蔵、細工倉は、敷地西側の通りである四間道に面している。数奇屋造の表座敷と表庭、書院造の新座敷、二畳台目の茶室がある南座敷など、よく保存されている。

歴史的建造物の保存・活用の重要性が再認識される中、伊藤家住宅を始めとする四間道地区の歴史文化的まちづくりが期待される。